



日本画「川中島」佐々木古桜

新たに寄贈された日本画「川中島」を紹介します。大岡の金子千満喜さんから寄贈していただきました。

頼山陽の漢詩『題不識庵擊機山圖』（川中島）の「鞭聲肅々夜河過」を題材にしたもので、薄靄の中、馬で鞭の音も静かに浅瀬を渡る上杉謙信主従の姿が描かれています。謙信は白い頭巾を被り、僧体で白馬に乗っています。

永禄4年(1561)9月の第四次川中島の戦いは、『甲陽軍鑑』では妻女山に布陣した上杉勢を、挟み撃ちにするべく、武田勢は別動隊を妻女山に向かわせませんが、それを事前に察知した上杉勢は静かに山を下り、雨宮の渡しで千曲川を越え八幡原に向かい、霧が晴れると突如信玄の本

陣の目前に迫っているという状況になっていました。

この合戦では、信玄にこの啄木鳥戦法を進言した山本勘助は奮戦の後、討ち死にしたといわれています。

作者の佐々木古桜は、本名寿太郎、明治25年京都生まれで、京都で日本画を修行した後に沼津に移住し、千本に住み、昭和20年7月の沼津空襲で焼け出されました。その後、庄栄町に移り、昭和51年に亡くなりました。夫人は河鍋暁斎の遺児と伝えられる宇田雨柳(柳蔵)の次女はるさんです。

武者絵を得意とし、三島大社に奉納した源為朝の大衝立が代表作とされ、当館には戦中・戦後に豆画帳に記された絵日記「戦中絵日記」が本人から寄贈されています。

駿河湾の漁

川口 洋司さんの漁話

川口組の漁への願いと感謝・・・その2

川口さんからご寄贈頂いた『昭和六年一月巾着網台帳第三号』（以下、『台帳』）には、昭和6年（1931）初～昭和15年（1940）末までの収支表が含まれています。それを見ていくと、寺社などへの信仰に関する支出もあります。今号は、『台帳』の中から昭和8年（1933）の寺社に関する支出（表参照）を見ていきます。

●三島大社（三島市）

川口さんが現役の頃は、1月2日にバスを借りて乗組員とその妻子と共に恵比寿（事代主神）を祀る三島大社へ参拝していました。恵比寿は豊漁をもたらす神として漁師から信仰の篤い神です。それは川口組で10月20日に行われている恵比寿講にも表れています。『台帳』でも三島大社参拝日を1月2日としている年が多く、昔から日付が決まっていたことがわかります。昭和8年は、正月の他、2・5・9・12月にも三島大社へ参拝しており、他に比べて支出も高額なことから川口組にとって重要な神社であることがわかります。

●大瀬神社（西浦江梨）

川口さんが現役の頃は、1月3日に漁と海上安全にご利益のある大瀬神社へ大漁旗を飾り付けた漁船で参拝にでかけていました。沼津の漁師は大瀬神社に参拝することを「大瀬参り」と称しているほど、大瀬神社は漁師の信仰が篤い神社です。1月3日の大瀬参りは川口組の有志で行いますが、大瀬神社の例祭である4月4日の大瀬祭りには、川口組の乗組員をはじめ、普段は船に乗れない女性も乗せて大瀬参りを行います。大瀬祭りでは赤い幟を奉納することが近隣の漁師のならわしとなっているため、表中4月4日の「昇代」はこの費用と考えられます。普段行っている漁でも大漁となればその度にお礼の大瀬参りを行います。

●豊川稲荷（妙巖寺 愛知県豊川市）

稲荷も恵比寿同様大漁をもたらす神として知られています。表中1月15日の豊川稲荷は日本三大稲荷の一つとして全国的に知られている稲荷です。他の年には水晶山（伊豆の国市）にある稲荷神社を訪れています。この稲荷神社には川口組と同じ獅子浜の五号網組が昭和3年（1928）に奉納した石灯籠があり、獅子浜の漁師の信仰が篤かったようです。表中4月8日は「組ノ稲荷様」への出費で、川口組で祠を建てて祀っている稲荷に関する費用でしょう。川口組を解散した時には川口組の稲荷を伏見稲荷大社へ返納しています。

●神明神社・吾妻神社（いずれも獅子浜）

この2柱は川口さんが住む獅子浜にある神社です。川口さんが現役の頃は、毎月の勘定の時には集落内の

全ての寺社に金銭を包んで奉納していました。表中3月13日は神明神社の上棟式、9月17日の吾妻神社は例祭日のため、勘定の時の奉納とは別の奉納です。6月20日の「区社御礼参り女シ」は川口組の女シ（女衆）による集落内の神社への漁へのお礼参りになります。

●人穴浅間神社（富士宮市）・丸子浅間神社（浅間町）

表中3月17日、11月30日に出てくる「人穴様」は人穴浅間神社を指していると考えられます。人穴には富士講の開祖長谷川角行が修行した洞穴があり、富士講の聖地となっていました。また、表中10月24日の「丸子様」は丸子浅間神社のことと思われます。元々は丸子神社・浅間神社と別々の神社でしたが、明治10年（1877）に丸子神社（丸子町）が浅間神社へ遷座して一扉二社となっており、浅間神社に関連する神社となっています。川口さんが現役の頃はいずれの神社への参詣を行っていませんが、国指定重要有形民俗文化財「沼津内浦・静浦及び周辺地域の漁撈用具」の中には須走口（小山町）や吉田口（山梨県富士吉田市）の富士講の御師が出した御札があり、漁師にとって富士山を祀る浅間神社が信仰の一つになっていたようです。

●鯖大師（崇福寺 静岡市駿河区）

表中10月19日の静岡鯖大師とは鯖を持った弘法大師を祀る崇福寺のことで、崇福寺の鯖大師は八坂寺（徳島県海陽町）の鯖大師から大正年間に勧請されました。八坂寺の鯖大師のご利益は子宝成就・病気平癒ですが、崇福寺では大漁のご利益として静岡県内の漁師から信仰を集めました。川口さんが現役の頃も不漁が続くと鯖大師へ行って祈願を行っていました。

他の年には、「成田山」（新勝寺 千葉県成田市）・「大山様」（阿夫利神社 神奈川県伊勢原市）・「伊勢」（伊勢神宮 三重県伊勢市）などへの支出も見られ、日本各地の寺社に大漁祈願を行っていたことがわかります。（話：川口洋司氏 昭和17年生まれ 沼津市獅子浜在住）

日付	記載(原文ママ)	金額	寺社名
1月2日	三島神社御祈禱料	3円	三島大社
1月2日	三島行費用	14円50銭	三島大社
1月3日	大瀬行御礼銭看代	1円50銭	大瀬神社
1月15日	豊川稲荷様札	1円	妙巖寺(豊川稲荷)
2月14日	三島神社へ御祈禱料発動船仲間行	3円	三島大社
3月13日	神明様ノ上棟式ノ時御祝儀	2円50銭	神明神社
3月17日	人穴様札	30銭	人穴浅間神社
4月4日	大瀬神社ニ昇代トシテ上ル	1円	大瀬神社
4月8日	組ノ稲荷様ノ時菓子代	50銭	川口組の稲荷小祠
4月13日	角野御宗師様ノ札	2円	不明
4月13日	四月大瀬行ノ時看代	5円50銭	大瀬神社
4月25日	小林法蓮先生	5円	報恩閣
4月28日	御観音様ノ墨替寄付	3円	馬込の観音堂か
5月16日	三島神社行自動車代	4円60銭	三島大社
5月16日	祈禱料	3円	三島大社
5月16日	中食料	9円40銭	三島大社
6月20日	区社御礼参り女シ	2円70銭	獅子浜の神社
9月16日	大瀬神社ニテ菓子代	50銭	大瀬神社
9月17日	吾妻神社寄付当番町へ	1円	吾妻神社
9月30日	三島大社参費用	15円70銭	三島大社
10月19日	静岡鯖大師様参り	1円	崇福寺
10月24日	丸子様ニ御礼	1円	丸子神社
11月30日	富士人穴様様札	30銭	人穴浅間神社
12月2日	三島社行費用	3円90銭	三島大社

表：昭和8年の寺社関連の支出

『ふるさと沼津覚書』

加藤 雅功

■大岡・金岡編 その3 生活の舞台②

●扇状地の地形・地質 黄瀬川扇状地の特性として、砂礫より主に砂泥質の「黄瀬川扇状地堆積物」から成り、富士山の山体崩壊（御殿場岩屑なだれ）で約2900年前に流下した「御殿場泥流」を起源とする点を前回紹介した。

岩屑なだれ発生後200～300年間に派生した泥流は河川等に流れ込み、何度か再堆積して均質な地層ではない。溶岩流と古富士泥流堆積物の上に、新期の泥流堆積物が10m以下の層厚で乗る「火山性薄層扇状地」の典型である。すでに愛鷹・箱根山間の「黄瀬川谷」には約1万年前に三島溶岩が流れ、長泉町下土狩～三島市老町田間に溶岩流の高まりがあり、鮎壺滝や徳倉大滝（鮎返し）の遷移点が位置する。

黄瀬川扇状地には箱根山寄りの大場川沿い、愛鷹山寄りの黄瀬川沿いとに段丘地形が見られる。段丘化に伴い、部分的ながら「開析扇状地」の様相を呈する。河岸段丘は主に鮎壺滝以南の沼津市寄りの黄瀬川本流側に広がり、2段から3段程度の局所的な段丘面が見られる。河岸段丘の発達が顕著でないのは、扇状地の形成時期が比較的新しく、かつ圧倒的に短期間で急激な泥流堆積物の拡大であったことが関係する。

むしろ大部分の扇状地面（地形の原面）が広く残っている。もちろん縄文時代中期以降の海水準の変動（海退）が主要因ではなく、すでに沼津市三芳町付近の段丘崖の露頭で2回の泥流の流下があったことが確認できている。つまり弥生時代前期頃でも、数回の泥流堆積物の拡大があったことに起因していることが分かる。

扇頂を裾野市水窪付近として捉えれば、長泉町以南で旧河道を利用した灌漑水路と古代に成立した条里水田のほか三島の湧水利用や中世から近世にかけての耕地開発も、一般的な扇状地に比較して砂泥質土壌故の「保水性の良さ」が、黄瀬川扇状地ならではの特異性と言える。ただし黄瀬川以東でも溶岩の高まりや水利に恵まれない乏水地域が、長泉町本宿・竹原や清水町伏見・八幡付近の河岸段丘上に広く見られる。

黄瀬川の流れる扇状部で先に流下した三島溶岩流の高まりを避け、箱根山西麓のローム層や軽石流が分布する大場川沿いより、むしろ長泉町南一色から下長窪にかけての愛鷹山東麓で黄瀬川の河道の固定化が進んだ。沼津市北小林付近には愛鷹火山のローム層の堆積地があり、やがて南小林～本宿間で河川の蛇行が始まった。側削や堆積作用が容易であり、沿岸部に新旧の河床部を残して段丘地形を形成した。ただし愛鷹山の尾根の張り出し部を深く下刻した「古黄瀬川」を前身としている点から、鮎壺滝の北東側の溶岩丘や滝より南側の南小林・上石田付近の「埋没段丘」なども

あって、地質構造的にはそう単純ではない

●表層地質と土壌特性 大岡・金岡地区の平地部分の大半は、御殿場岩屑なだれを起源とした泥流堆積物で砂泥質の「黄瀬川扇状地堆積物」から成る。そのため砂礫から成る一般的な扇状地とは大いに異なっており、地区全体に地表面から天水や地表水が浸透しにくく、透水性の悪さから地下水面も浅い「乏水地域」が広がる。

黄瀬川下流域では御殿場泥流の二次堆積物のために、その特性は様ではない。再堆積で土石流の先に土石流から移化したものが中心である。露頭の地層断面でも層理面が乱れ、攪乱されて淘汰が悪く、碎屑物の礫・砂・シルトの分級の選り分けや水平堆積も少ない。流水を介して短時間に流下したため、直径5～20cmの円礫を多く含み、人頭大の円礫の混入のほか、時には直径3m前後の大石も各地で散見する。

一般に粘性がなく非常に硬質で、固く締まった地層である。黄色～黄褐色、褐灰色～灰色を呈している。考古学の発掘に伴う地表近くの便宜的な土壌の分類として、透水性が比較的あり、主に砂礫から成る「砂利マサ」より砂質の「マサ砂」などの使い分けがある。富士宮市・富士市や三島市など、沼津市・清水町の一部では固結した泥流堆積物の盤層のことを「カンカンマサ」と呼ぶ。元々富士・愛鷹山麓の固結した火山灰の俗称を「マサ（真砂）」と呼び、砂混じりの粘土を指す「マサ土」に似る。

砂・シルトなどから成る「カンカンマサ」の事例として、下石田の豆生田遺跡や下石田原田遺跡ではシルト質のマサを切り込んで住居址が築かれていた。一方、砂質で緩くかつ締まりのない地層で、崩れやすい場合もあり、多様な外見や顔付きさえ持っている。なお不透水性の強い粘土等は低湿地での事例に多い。



陸地測量部 2万分の1 地形図 「沼津」 明治20年

皇室ゆかりの地探訪3 我入道の浜・御摘草記念碑

我入道字蔓陀ケ原にある我入道公園の一面に高さ6m近くもある大きな石碑が建てられています。正面には「昭憲皇太后御摘草記念碑」と記された海軍大將馬良橋の揮毫による碑銘が、裏面には東京帝国大学の宇野哲人教授の撰文による碑文が彫り込まれています。

これは、昭和10年8月に我入道地区民により建立されたもので、大正3年4月9日に沼津御用邸で亡くなった昭憲皇太后の遺徳を偲ぶために建てられたものです。皇太后からは沼津御用邸に行啓する度に楊原村に道路橋梁修繕費、高齢者に菓子料などが下賜されていました。

石材は宮城県石巻産で、長さ6.7m、厚さ33cm、重量約15tという大石を沼津駅から我入道まで青年団等150人が奉仕で曳いたと伝えられます。

『昭憲皇太后実録』によれば、皇太后が沼津御用邸滞在中、初めて我入道海岸に足を運んだのは、皇后時代の明治39年4月13日のことのようにです。それまでは牛臥海岸や三島館などを訪れていました。以後、亡くなるまで避寒のために沼津御用邸に毎年長期に渡り滞在する度に、4月頃にこの地に1度か2度は足を運ばれ、自生する浜防風などの野草を摘んで楽しまれました。

浜防風は学名*Glehnia littoralis*、セリ科の多年草で、中国の漢方薬に使われる防風に似て、砂海岸の砂地に群生することからその名があります。山菜として食用にされるほか漢方薬などにも利用されるようです。初夏から夏が花期ですが、まだ若芽の時期に訪れていたこととなります。今でもわずかに防波堤から海側の砂浜に自生しています。

皇太后は御用邸滞在中も明治天皇を祀る祭壇を設けて

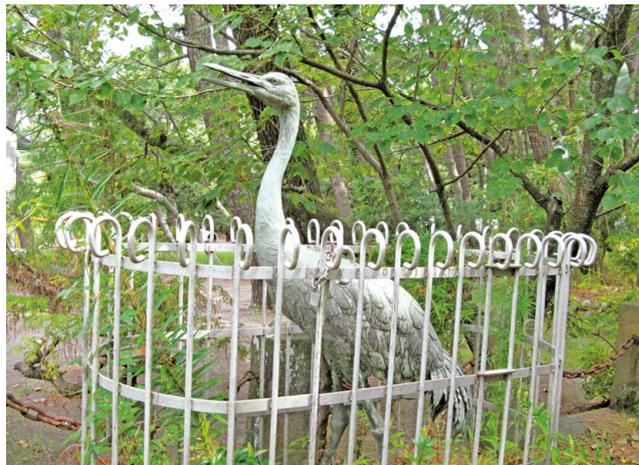


昭憲皇太后御摘草記念碑

草木などの珍しいものを御霊前に供えていたと伝えられています。

石碑の周囲に巡らされた玉垣の柱の頭部には、金剛石（ダイヤモンド）をかたどった飾りがつけられていますが、これは皇太后が華族女学校（学習院女子部）に下賜された御歌「金剛石」に因むものです。

この記念碑には後日談もあります。戦後焼失した本邸内に残されていた鶴のブロンズ像を地元ではこの地に移すことを希望しましたがなかなか聞き入れられず、貞明皇后の「鶴が行きたいと言っているのだから行かせてあげなさい」という鶴の一声で許可されたと伝えられます。



御用邸本邸から移された鶴のブロンズ像

歴民からのお知らせ

歴民講座の開催について

下記の通り歴民講座を開催します。

期日 令和7年11月9日(日) 午後1時半
会場 沼津市立図書館4階 視聴覚ホール
演題 「戦国北条家の判子行政と豆州西浦」
講師 歴史学者 黒田基樹さん

事前申し込みが必要です。申し込み方法は「広報ぬまづ」10月1日号を御覧ください

沼津市歴史民俗資料館だより

2025.9.25発行 Vol.50 No.2 (通巻247号)
編集・発行 〒410-0822 沼津市下香貫島郷2802-1
沼津御用邸記念公園内
沼津市歴史民俗資料館 TEL 055-932-6266
FAX 055-934-2436

URL: <https://www.city.numazu.shizuoka.jp/kurashi/shisetsu/rekishiminzoku/index/htm>
E-mail: cul-rekimin@city.numazu.lg.jp